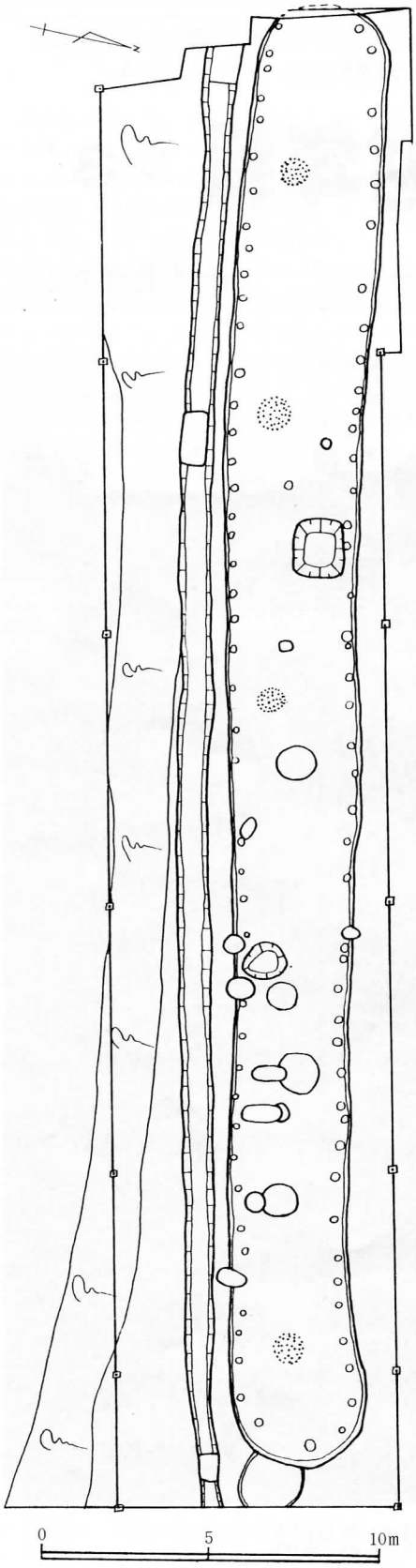
平成２年３月31日

米沢市文化財年報 No.3

米沢市教育委員会

一ノ坂遺跡発掘調査現地説明会風景



一ノ坂遺跡大型住居跡全体図

一ノ坂遺跡

調査期間：平成元年５月12日～７月11日

本遺跡は，洪積世台地と，直下に広がる沖積世台地を含めた東西300ｍ×南北350ｍに分布する縄文前期初頭の単純遺跡である。

昭和30年前半頃にその存在が確認されていたが，土器が伴わない遺跡であることから特別に注目されずに今日に至っていた。

平成元年に入り，遺跡の中心部に宅地造成の申請が提出されたのを受けて，約800㎡を調査対象として緊急発掘調査を開始した。

初め，調査区の中央に沿って溝状の遺構が東西に認められ，しかも極めて多量の遺物と炭化物や焼土が混入することから竪穴住居跡が重複している公算が強いと判断し，慎重にプラン確認を行なった結果，予想外の大型住居跡が確認され，住居跡の南側に沿って排水を意図した溝を配することも判明した。

今回の調査で検出された大型住居跡は，ほぼ東西方向に主軸長を有し，長軸43.5ｍ，短軸４ｍという超ロングハウスであり，縄文前期初頭に属するものであった。

これまでに発見されている全国の大型住居跡と比較した場合，一ノ坂遺跡の大型住居跡は最長でしかも最古の例といえる。さらに，遺物についても，チップ，フレーク等の剥片を含めれば100万点を超えるほどの多量の遺物が検出されており，これまで大型住居跡は遺物量が極めて少ないことが特徴の一つとされてきたことからしても，特異な例と言える。大型住居跡の用途としては，これまで「集会所・公民館説」，「祭祀遺構説」，「共同作業所説」，「食料貯蔵説」などが挙げられているが，本遺跡の場合，住居内の西側部分から土器が検出され，東側部分から石器製作を意図した多くの遺物が検出されており，出土箇所が偏っている。これは，居住空間と石器製作，すなわち作業空間とを明確に区分する両面を共存していた大型住居跡とも考えられ，大型住居跡を究明する上での貴重な事例であると思われる。

なお，本遺跡全体の性格を把握するため，平成２年度から国庫補助を受け，周辺部の調査を実施する予定である。

大浦B遺跡

調査期間：平成元年11月6日～12月25日

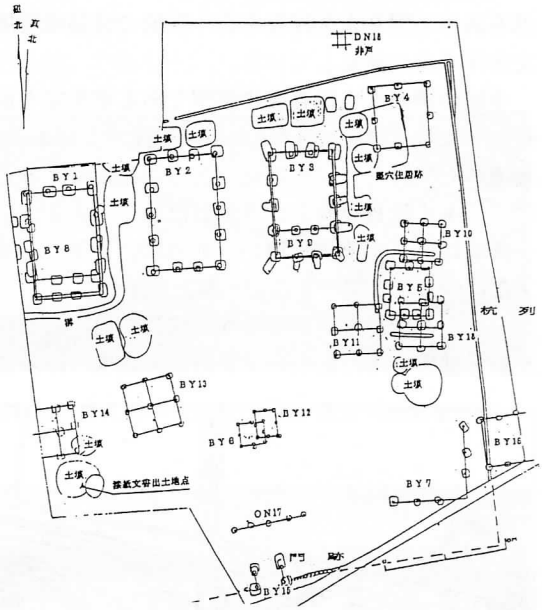
本遺跡は米沢市中田町字大浦一405他に所存する。松川と堀立川，それに羽黒川が複合合流して形成された大規模な舌状の微高河岸段丘が発達しており，遺跡はその段丘に沿って大浦A～Dの4遺跡群で構成され，総称して大浦遺跡群と呼んでいる。

大浦遺跡は，昭和49年からこれまでに，駐車場造成，土地区画整理事業，宅地造成等の緊急調査を実施しており，今回の店舗及び駐車場新設に伴う大浦B遺跡の調査は大浦Ⅳ次調査となる。その調査対象面積は約2,700㎡であったが，予想以上の遺構と遺物，それに降雪も障害となって，今年度は約1,480㎡の調査を実施した。

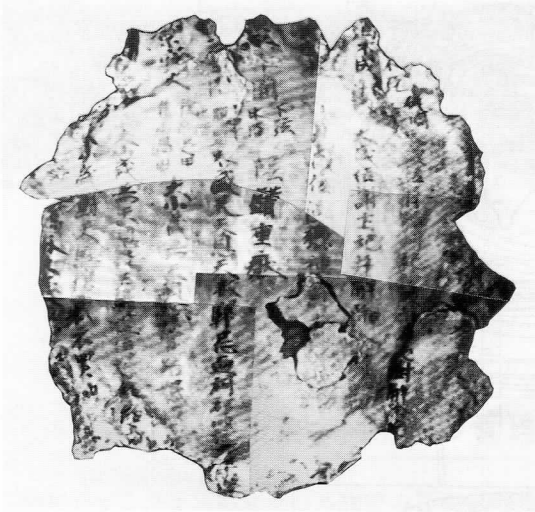
調査結果の概要は，遺構としては，南北39m，東西46m（推定）の杭列に区画された範囲内に掘立建物跡16棟，井戸1基，土壙17基の遺構が検出された。区画は南面の中央に4脚門を有するもので，南北4間，東西3間の大型建物跡3棟を北側に置き，その建物を中心として，東西両側と南側に2間×3間，3間×3間の倉庫が6～10棟程で構成することが判った。また大型の建物跡を含む他の建物の大半は重複しており，柱穴の切り合い関係から2期にわたって存在していたことも判明している。

遺物としては，土壙を中心に整理箱20個相当分が出土し，特に土師器の内黒蓋，両耳坏は20点以上を確認しており，当地区ではこれほどまとまって検出された例はない。さらに同じく土壙内の出土で，漆紙文書の発見があった。分析した結果，9世紀初頭の暦（貝注暦）であることが判明し，極めて貴重な発見となった。

大浦B遺跡発掘調査現場



大浦B遺跡配置図



大浦B遺跡出土「漆紙文書」

従って，今回確認された大浦B遺跡の遺構は，8世紀中葉～9世紀初頭にかけての官衙（置賜郡衙）と推測され，なかでも米等を収納する倉『正倉院』の可能性が高い。

このようなことから，文化庁の指導・援助を得ながら，平成2年度以降も調査を継続していく予定である。

寶領塚古墳

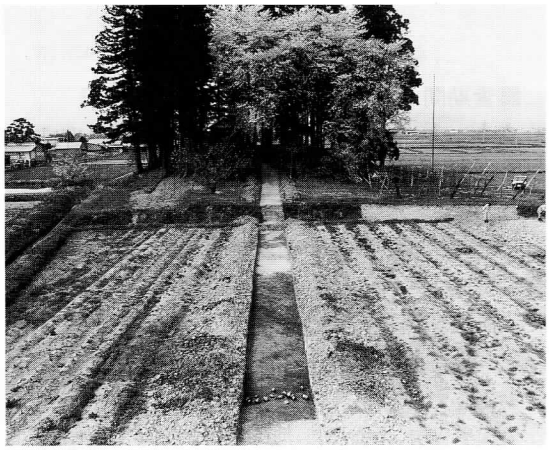
調査期間：平成元年４月３日～４月24日

この古墳は，昭和61年５月に地元上窪田下部落が主体となって実施した測量調査では，二段構築を有する前方後方墳であると考えられていた。付近一帯は水田地帯となっており，西の鬼面川，東の松川の中間地点に単独丘として存在している。

現在は寶領稲荷神社が祭られているが，以前は寶領神社の南方にも小高い塚がもう１基存在していたと言われる。おそらくは前方後方墳の前方部の高まりを小塚として認識していたと思われるが，過年の圃場整備事業によって前方部に相当する約３分の２が消滅した。前述の測量調査で得られた重要性を鑑み，ふるさとの貴重な文化財を解明し保存活用を図り永久保存を行う目的で寶領塚古墳史跡保存会が発足している。

今回の調査も当保存会の要望である市指定を前提とした学術調査であり，古墳の規模や上部構造，周溝の有無，それに失われた前方部を把握する目的で，本市教育委員会が実施したものである。

調査はトレンチ法を用い，前方部に４箇所，後方部に沿って５箇所を設定し調査を進めたところ，後方部からは葺石が明確に検出された他，失われた前方部を含めた各トレンチ内から古墳の縁辺部に周溝の存在が確認された。しかも後方部のトレンチ調査により，二段構築ではなく三段構築を有する古墳であることが判明している。さらに周溝の存在から古墳の規模を算定することも可能となった。



寶領塚古墳調査現場

その結果，全長80ｍ，前方部長40ｍ，前方部幅50ｍ，後方部長40ｍ，同幅44ｍの，県内では最古の，東北でも最大規模の前方後方墳であることが判明し，東北の古墳文化の発展を知る重要な資料として注目を集めている。

寶領塚古墳測量図

上杉家からの寄贈物件

◎国指定重要文化財上杉家文書

上杉家に伝来した中・近世文書1752通附558点であり，昭和54年６月６日重要文化財に指定された。

◎国指定重要文化財
紙本金地著色洛中洛外図
（狩野永徳筆六曲屏風一双）

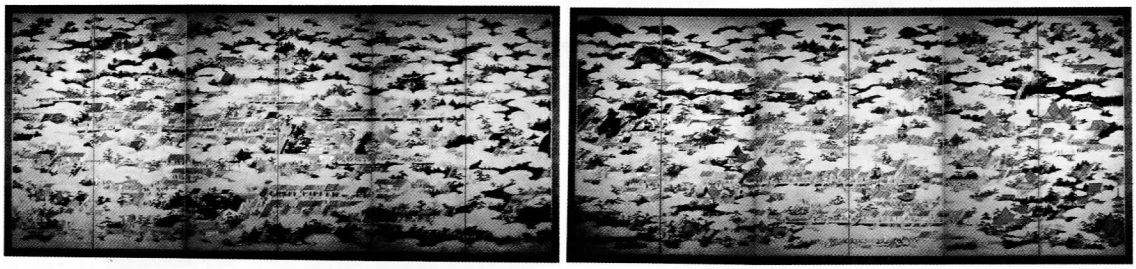
織田信長が，天正２年，上杉謙信に贈った由緒ある屏風である。金箔をふんだんに使い，京名所を大きく装飾的に構成してあるが，画面の細部をよく見ると当時の活気あふれる町並みや多様な庶民の生活ぶりが生き生きと描かれている。
桃山文化の担い手の一人である狩野永徳の強い精神と高い技倆をうかがわせる名作である。

◎山形県指定有形文化財 紙本著色厩図
（六曲屏風一双）

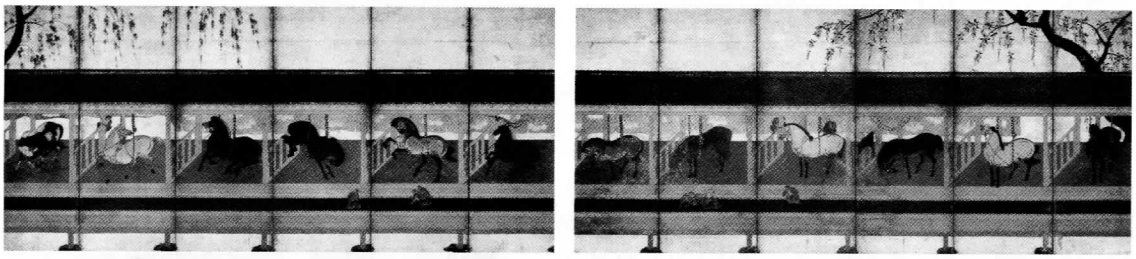
太閤秀吉由緒のものとみられる伝狩野永徳筆の一双である。馬を各扇に１頭ずつ配置した厩の図で，数匹の猿を添え，厩の後には桜・柳を描き，張りめぐらした幔幕には桐文がある。
桃山時代の数多い厩図の中でも逸品といわれる。

◎太刀 銘 長船長光 附打刀拵

上杉景勝秘蔵の35腰の一つ。文永11年10月25日の書下しの銘があり，その打刀拵鞘の鯉口の中に「日光」と小さく墨書があり，これが恐らく，名物牒にも，又，景勝自筆文書の中にも見られる「日光長光」であろう。



国指定重要文化財 紙本金地著色洛中洛外図（狩野永徳筆六曲屏風一双）



山形県指定有形文化財 紙本著色厩図（六曲屏風一双）

市立上杉博物館の管理委託団体の変更について

昭和43年５月から市立上杉博物館の管理を委託している社団法人上杉博物館協会の解散に伴い，新たに設立された財団法人米沢上杉文化振興財団に当館の管理を委託することになります。

市指定文化財紹介

〈白子神社伝鬼瓦〉

指定年月日：平成元年３月27日
指定の種類：米沢市指定文化財（歴史資料）
指定物件名：白子神社伝鬼瓦　２面

指定物件の所在：米沢市城北２丁目３番25号
指定の範囲：「鬼瓦」２面（阿（あ）・吽（うん））
　　阿面　縦45cm　横42cm
　　吽面　縦41cm　横41cm

指定の理由：白子神社は和銅年間に，白蚕発生の奇跡によって，その守護神として創建されたと伝えられている。以来神威高く，歴代国主の崇敬を受け，一般の信仰も厚い。「伝鬼瓦」は神社本殿箱棟に飾られたと伝えられ，大正年中に時の内務省属青山盈敦氏が，神社古器物調査として来県されたとき，この「伝鬼瓦」を少なくとも1000年前後の古瓦であると鑑定された。

ただし，1000年前後のものとするには確たる証拠がなく，判然としないものの，室町時代以前のものとみられ，また当地方において他に類のない貴重なものである。長く伝来してきたことにより，「伝鬼瓦」として指定し，保護保存していく必要があるものである。

〈行屋（ぎょうや）資料〉

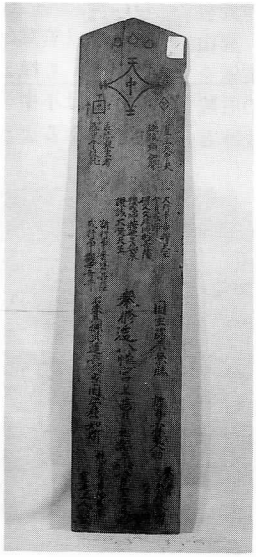
指定年月日：平成元年３月27日
指定の種類：米沢市有形民俗文化財
指定物件名：行屋資料　619点
指定物件の所在：米沢市六郷町西藤泉71
指定の範囲：行屋　１棟
　　お籠り用具　384点
　　登拝用具　234点　計 619点

指定の理由：置賜地方では江戸時代中頃から昭和初期頃まで，一人前になる儀式として，また豊作を祈願して飯豊山，出羽三山に参拝する山岳信仰が盛んであった。その際，小川のほとりに建てられた行屋と呼ばれる小屋で家族と離れて生活し，水垢離をとり精進潔斎する行を行った。お籠り用具には，家族と別に煮炊きする（別火）ための炉をはじめ，茶碗，椀，鉢，ヘラ等食事に関するもの，梵天，シメ等も含まれる。登拝用具は，白装束の行衣が中心となる。

行屋資料は庶民の山岳信仰の実態を明らかにする貴重な民俗資料であり，消滅の危機にある資料を収集・保管していることに大きな価値がある。

〈成島八幡神社棟札等〉

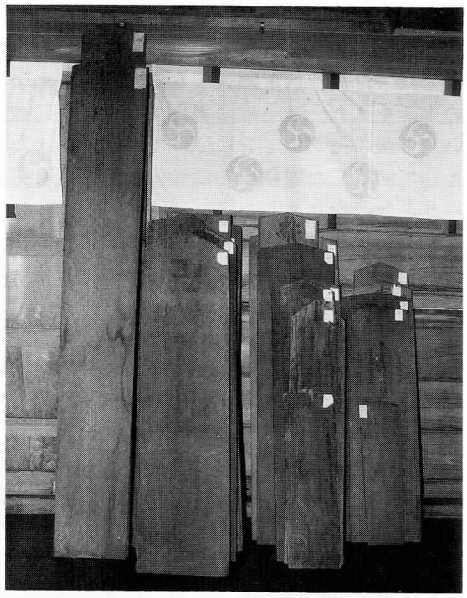
指定年月日：平成２年３月28日
指定の種類：米沢市指定文化財（歴史資料）
指定物件名：「成島八幡神社棟札」等　43枚
（棟札40面，寄進札５面，鐘札１面，計46面）
指定物件の所在：米沢市広幡町
成島1508－５
指定の範囲：43枚（46面）
法量・材質一覧は省略



指定の理由：成島八幡神社は武門の神として置賜地方を支配した歴代の領主の崇敬を受けた。殊に天正19年岩出山に移された伊達政宗は，成島八幡神社の分霊を奉じてこの地を去り，現在仙台市の大崎八幡神社（国宝）となっている。

成島八幡神社が有する棟札で最も古いのは，正安２年（1300）の二枚の棟札で，長井氏時代の貴重な遺産である。札の両面に記載されている場合もあるが，伊達時代のものと11面が中世の棟札である。

成島八幡神社の棟札は本市における数少ない中世資料として極めて価値が高く，近世のものも含めて貴重な歴史資料といえる。



〈成島八幡神社舞楽面〉

指定年月日：平成２年３月28日
指定の種類：米沢市指定文化財（工芸品）
指定物件名：舞楽面（蘭陵王面・菩薩面）２面
指定物件の所在：米沢市広幡町成島1508－５
指定の範囲：

蘭陵王面	面長40.5cm	菩薩面	面長27.5cm
	面幅23.0cm		面幅20.0cm
	面高26.5cm		面高13.0cm
			髪際高17.0cm

指定の理由：「蘭陵王面」は南北朝期，舞楽に用いられたと伝えられる仮面（かめん）である。竜を象徴したものであるが，この面は眼窩の中の回転する眼球と揺れる下顎は欠失している。また，本来よく調和がとれていた頭部の蚊竜も継目のほぞが破損し離れた状態である。しかし高く秀でた鼻，引きしまった口に鋭さを示し，巧みに憤怒の形相を表している。

「菩薩面」も南北朝期をさかのぼる作と伝えられる内刳（うちぐ）りの面である。木製で漆をほどこしている。蘭陵王面・菩薩面は中世における木彫技術を伝える貴重な資料である。

蘭陵王面

菩薩面

平成元年度米沢市立上杉博物館特別展より

上杉鷹山公とその時代

米沢は平成元年，市制100周年を迎えました。この時にあたって，米沢九代藩主で，窮乏のどん底にあった米沢藩を立ち直らせた中興の名君といわれる，上杉治憲（鷹山）の生涯と業績を，今一度再確認してみようと，鷹山公資料展が企画されました。この資料展では，ただ資料を陳列するにとどまらぬよう，鷹山の生涯をストーリー風に脚色するとともに彼の業績をいくつかのセクションに分けて考察し，また彼の右腕として活躍した家臣たちについても表現してみようということになりました。

様々な案が提出されましたが，まず，鷹山の一生を総括した年表パネルを製作することが決定しました。これは，活字だけでは見学者の興味をひく事は困難なので，「誕生」「元服」「奥での養蚕」「〝かてもの〟刊行」等18のシーンを絵で表した絵年表にしました。展示内容は「上杉鷹山の登場」「家臣たち」「農村復興」「産業奨励」「思想と教育」「家族と生活」そして鷹山の肖像画を集めた「さまざまな上杉鷹山像」の各部門に分け，解説パネルもなるべく平易な文章でと配慮しました。

資料展では「市制100周年記念特別展　上杉鷹山公とその時代」として，平成元年９月５日から10月12日まで米沢市立上杉博物館において開催されました。国指定重要文化財の三好善太夫重道上言集・三好善太夫重道奉贐書・従四位下位記・口宣案，県指定文化財の素懸水浅葱糸威腹巻（伝上杉治憲所用），市指定文化財の上杉治憲倹約誓詞・嚶鳴館遺稿版木・かてもの版木・流虬百花譜を含む貴重な資料が80余件，写真・複製が20余件展示され，初めて鷹山と出会う人から研究者まで，興味深い企画展となったと思います。博物館の入口には，苧（からむし）（米沢織の源流である青苧の織物の原料）や五加（うこぎ）（若葉は食用になるため鷹山が垣根に奨励したという）も植えられました。

今回は小中学生入場無料とし，また小学生も楽しく見学できるようにと展示をみながら解答するクイズ形式の「質問シート」を準備しました。その裏の「あなたも鷹山を画いてみよう」という欄には，鷹山像としてよく描かれる老練な表情ではない鷹山を画いた生徒もおり，この企画展で改めて鷹山を見直しイメージをふくらませてくれたようでした。

鷹山公展図録　¥1,500
市立博物館で頒布

報告書紹介

米沢市教育委員会では，埋蔵文化財及び一般文化財を年次毎に調査し，報告書を作成しておりますので紹介します。

〈埋蔵文化財調査報告書〉

○『水窪関係報告書』	第１集	在庫なし
○『八幡原遺跡調査報告書Ⅰ』	第２集	在庫なし
○『八幡原遺跡調査報告書Ⅱ』	第３集	¥4,200
○『八幡原遺跡調査報告書Ⅲ』	第４集	在庫なし
○『比丘尼平遺跡調査報告書』概報	第５集	在庫なし
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』（水神前・柿の木・ニタ俣Ｂ各遺跡）	第６集	¥4,000
○『笹原遺跡発掘調査報告書』	第７集	在庫なし
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（八幡堂・ニタ俣Ａ各遺跡）	第８集	¥4,950
○『戸塚山第137号墳発掘調査報告書』	第９集	¥2,000
○『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書』	第10集	在庫なし
○『左沢遺跡発掘調査報告書』	第11集	¥1,500
○『法将寺遺跡発掘調査報告書』	第12集	¥1,040
○『白旗遺跡発掘調査報告書』	第13集	¥　500
○『上浅川遺跡発掘調査報告書 第1･2次』	第14集	在庫なし
○『上浅川遺跡発掘調査報告書 第３次』	第15集	¥6,000
○『石垣町遺跡発掘調査報告書』	第16集	¥　800
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』（大清水遺跡）	第17集	¥3,700
○『大浦Ａ・Ｃ遺跡発掘調査報告書』	第18集	¥1,900
○『三の丸･生蓮寺遺跡発掘調査報告書』	第19集	¥1,170
○『木和田館跡第１次発掘調査報告書』	第20集	¥　400
○『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』	第21集	¥　950
○『矢子大日向遺跡発掘調査報告書』	第22集	¥1,500
○『遺跡詳細分布調査報告書』　第１集	第23集	¥2,200
○『笊篭Ｃ遺跡第１次発掘調査報告書』	第24集	在庫なし
○『遺跡詳細分布調査報告書』　第２集	第25集	¥1,700
○『覚範寺第1次･第2次発掘調査報告書』	第26集	¥1,510
○『遺跡詳細分布調査報告書』　第３集	第27集	未定

〈一般文化財調査報告書〉

○『米沢の民家』	第１集	¥　990	在庫なし
○『米沢の仏像』	第２集	¥1,370	
○『米沢の神社・小祠』	第３集	未定	

表紙の土偶について

この土偶は，米沢市八幡原No.30遺跡より出土したもので，縄文後期（約3800年前）のものです。

顔と腕の部分がこわれていますが，ふくよかな胸乳や腹部は女性をあらわしています。

県内には縄文時代の土偶がたくさん出土していますがこの時期のは少なく，縄文後期を代表するものといってよいでしょう。

昭和56年12月17日米沢市指定文化財となる。

発行　米沢市教育委員会
〒992　米沢市金池五丁目２－25
（担当　社会教育課文化係）
TEL　0238－22－5111